

先生のための「夏休み経済教室」8月18日中学校向け 記録

日時：2022年8月18日（木）9：30～15：50

場所：Zoomによるオンライン、進行役と一部発表者は東京証券取引所アカデミースクエア

参加者：165名（最大視聴者数）＊事前申込者数283名（8月15日対面申し込み者を含む）

司会進行：李洪俊（大阪市立矢田南中学校教諭）

テーマ：「新しい視点で深める経済教室」

- ・主催者挨拶 東京証券取引所 鈴木深
今年で15回目の経済教室。感染症拡大防止のため、オンラインのみの実施。
金融経済教育が近年注目されている。JPXによる事業強化。スクールマネ部について。
- ・経済教育ネットワーク 新井明 主なプログラム、見どころ・聞きどころの紹介

1時間目 JPXの最新の動きと金融経済教室の取組み（9：40～10：40）

1-1 鈴木深氏（東京証券取引所金融リテラシーサポート部よりの紹介

（1）JPXについて

2013年からJPX（日本取引所）がスタート。1999年までは株式売買立会所による手サインでの取引。2000年以降はコンピュータによる取引。1秒間に750回というスピードで情報のやり取りができる。

仕事内容としては、上場会社の審査・開示、株式の売買、清算決済を行っている。

株式売買による手数料収入が収入の40%

（2）最近の金融経済教育の取組みについて

JPX マネ部ラボ！の紹介。2022年4月からスタート。社会人や学校教育に深く関わる組織。

（3）市場区分の見直し

2022年4月よりプライム市場、スタンダード市場、グロース市場3つの市場区分に分けられる。TOPIXの見直しについて説明。日経平均株価は1950年9月7日から70年以上経過。日本を代表する算出方法。

株価についての基本的な仕組みを説明。

（4）最近の株式市場の動き

近年の新型コロナウイルスによる影響を例に、株価が上がった業種、下がった業種とその理由について説明。2020年、電気機器や情報通信は巣ごもり需要によって株価上昇。資源輸入に頼る鉱業は株価下落。2021年は海運が株価上昇。ちなみに海運が下がった時はアメリカトランプ大統領による中国との関係悪化の時。このように国際情勢が株価に影響を与えている事例を分かりやすく説明。

（5）教材等の紹介

「スクールマネ部！」による取組みを紹介。教材「金融クエスト」や教育支援プログラムの紹介

1-2 橋本ひろみ氏（大阪取引所金融リテラシーサポート部）よりの説明

大阪取引所による金融経済教育の取組み

大阪取引所の見学等について説明。大阪取引所から見学ルートのライブ配信。

1-3 司会からのコメントおよび質疑

Q：実物を見ながら体験的に学ぶことが、生徒にとっても記憶に残っている印象である。

生徒は「発行市場と流通市場の違いが分からない」「株価はどうやって変動しているの？」

「なぜ株価の変動が会社にとって利益になっているの？」という疑問を持っている。

A：新しく株式を発行して資金調達の間となっている。流通市場の価値が高ければ新たに事業資金を得るときに資金調達がしやすくなる。会社の評価が高まることで株価の上昇に表れている。

Q：なぜ、日本の株は100株からしか買うことができないのか？

A：その時代の水準に合わせて売買単位が決められている。安い値段で取引されるとそれに伴う企業側の把握するコストが高くなる。

Q：政府から資産運用をしてください、投資をしてくださいということをニュースでも良く見るが、100株単位だと投資家からしたら、買いづらいと思うが・・・これから変わる可能性はあるか？

A：売買単位は、2018年10月に100株に統一されたばかりであるので、しばらくは売買単位の大きな変更は行われられないと思われる。

その代わりに、売買単価が高額となる場合には、上場会社へ株式分割の実施を促すなどして、対応を求めることになると考えられる。

例えばトヨタ自動車は、2021年9月末に1株を5株へと30年ぶりの株式分割を行ったことにより、投資に必要な最低限の金額の水準が、100万円程度から20万円程度となった。

2 時間目 情報で金融を教える（10：50～12：00）

塩田真吾先生（静岡大学教育学部准教授）、新井明先生（目白大学社会学部非常勤講師）によるコラボで進行した。

2-1 新井明先生による金融情報教育の教材を紹介

（1）当初の問題意識

・2018・11 キックオフの会合からスタート

・江口清貴氏 (LINE)：①金融リテラシーのイメージは「数学力×ネットの特性理解×想像力・判断力」。②「正しく怖がる」ことが大事。

・木戸冬子氏 (東京大学)：①金融リテラシーの欠如 (奨学金のケース) ②キャッシュレス化によるお金に対する感覚のずれ③金融リテラシー教育が試みられているのにも関わらず浸透していない。

・柳川範之氏 (東京大学)：①求められているものは、プラグマティックなものか本質的なものか？後者だったらロジカルシンキングが求められ、新井紀子さんの「読解力の金融版」に近い。②また、お金に関してもシェアリングエコノミー、メルカリ、いろいろな種類のお金の登場などがあり、それに対応する教育が必要。

組織名を「金融・情報リテラシー研究会」とし、LINE みらい財団に所属する形で活動を行った。

(2) アンケートを踏まえた課題

<お金に関する本質的な金融・情報教育の必要性>

・子どもたちはお金についてある程度知り、体験しているが、使い方、管理に関しては自覚的ではない。

・子どもたちはお金の貸し借り、リスクに関して十分な理解をしていない。

<デジタル時代の金融・情報教育の必要性>

・約3割の子どもたちが、電子決済を利用。

・約8割の子どもたちが、PC・スマートフォンによる決済の利用意思を持っている。

・子どもたちは、電子決済を近い将来普及するものと捉えている。

・特に、身近なデバイスであるスマートフォンでの決済が進展することをイメージしている。

(3) 教材の作成

静岡大学准教授の塩田真吾先生が参加して、教材案を作成。それに検討を加え、最終的に次の三つの教材を作成した。

・基本編：「信用」ってなんだろう？

・応用編①：「見えないお金」との付き合い方を考えよう

・応用編②：複利的思考を身につけよう。

(4) どこで教材を使うか

<学習指導要領では> 中学公民的分野の確認

<教科書では> TK社のケース経済単元の目次と扱われている内容

・経済活動とお金の役割

・家計の収入と支出…クレジット、キャッシュレス決済、将来を見据えた選択

- ・金融の仕組みと働き…フィンテック
- ・ライフプランからお金について考えてみよう…リスクとリターン、金融商品
- ・日本銀行と金融政策が单元内でそれぞれ扱われている。

<使う場合の三つのパターン>

- ・一つは、教科書を使いながら必要な箇所、面白そうな箇所を部分的に使う。
- ・二番目は、授業のすき間の空き時間に投げ込み教材として使う。
- ・三番目は、学校全体で取組んで教材全部を使う。

2-2 塩田先生からの報告

(1)「金融×情報×リテラシー」の取り組み

なぜ情報が入るかの説明があった。

(2) 具体的な教材の紹介

<基礎編では>

- ・「信用」と「信頼」について、その違いについて生徒に考えさせることから始める。
- ・「生徒会選挙で投票をする場合」と「お金を貸す仕事に就いた場合」を想定させ、何を重視するのかについて話し合いを行う。
- ・「信用」は過去の実績や成果に基づき、「信頼」は未来の行動を信じ期待する側面がある。
- ・「信用」がないと、将来車や家を買う際にお金を借りることができないかもしれない。
- ・個人の「信用」を数値化する取り組み（信用スコア）も始まっており、今後も「信用」を高めることが大切。

<応用編①では>

- ・なぜ自分で作ったお金は使われないのだろうか、また、同じ金額だったら紙幣、金、デジタル通貨のどれを選ぶだろうかから考えさせる。
- ・キャッシュレス決済の国際普及度のグラフから日本の位置を確認させて、日本でキャッシュレス決済が普及しない理由について、信用の問題であると同時に、治安の良さや紙幣や貨幣の偽造が困難であることなども考えさせるとよい。
- ・具体的なシミュレーションを通して、キャッシュレス決済のメリット・デメリットについて学ぶ。

<応用編②では>

- ・複利的思考について、「褒美として一日一粒のお米」というエピソードを通して、単利的な思考と複利的な思考について学ぶ。
- ・長期的な視点で見ると単利的なものよりも複利的なものの方が、差が大きくなる。
- ・前の状態を継続しながら行うことで複利的な増え方をする。
- ・身近なものにも複利的なもの、単利的なものは存在することを発見させる。
- ・奨学金の例を出し、複利の怖さだけでなく前向きな借金もあること、その際の注意点を紹介する。

3-3 教材を使った授業例とその評価 新井先生による紹介

(1) 公民的分野として筑波大学附属中学校3年生での実践。

・三つの教材のうち、主に基礎編と応用編②を利用。応用編①はキャッシュレス決済の普及部分を利用した。

(2) 生徒の授業評価の紹介があった

①「景気と金融と信用と」

・お金を貸す立場だったら、将来性があり、信頼できる人に貸すと思う。借りる場合 には、自分が貸してもらえる人になることが大切。だが、信頼に絶対性がないから難しい。

・日本とアメリカのお金の運用の違いが驚き。日本人はリスクを気にして間接金融が多すぎる。アメリカの家庭はあんなに株をもっていて大丈夫だろうか。など

②「複利的思考を身につけよう」

・複利を考えるのはよいけれど、計算がめんどくさい。

・数学と経済が結び付いた。

・自分は借金をしないようになりたいと思っていたが、奨学金のように前向きな借金もあるのだと思った。など

③参考に大学生（目白大学教職課程）の評価が紹介された。

3-4 今回報告した教材の総括が新井先生からあった

1 デジタル時代の金融教育、情報からのアプローチが求められるとしても、基礎・基本となる金融に関する知識や態度がベースであることが大事であるという事であろう。

2 教材は、①面白いこと、②本質的な内容を踏まえていること、③時代の要請に応えることの三つであると考えられる。その意味では、教材としての資格ありと言えるだろう。

3 この教材はアナログ型で作成されているが、デジタル型の教材（タブレット使用）の開発がさらに求められるだろう。どちらのタイプの教材が生徒の金融リテラシーを高めるものになるか、比較研究が今後の課題となろう。

4 家庭科での金融教育や高校情報科でのデジタル教育と結び合わせたカリキュラムや教材作りも課題となろう。

3-5 コメント及び質疑

Q：私も中学生には、金融の考え方や基礎的な知識が大切であると考えている。金融の基礎的な力は、「信用」「複利的思考」の他に特に何が大切だと思うか？

A：金融に関する態度形成が必要なのではないか（新井）。「お金とは何か」についての基礎的な知識があるといいのではないか（塩田）。

Q：司会からのコメントと質問

ご提案いただいた内容は入試問題にも出てくる等、とても重要な内容である。そこで質問だ

が、キャッシュレス社会になると銀行の役割はどうなるのか。規制等はどうなるのか。民間が行っている「信用スコア」について数字が一人歩きしないか。

A：銀行の役割は変わらないと思う。間接金融の在り方は基本的に変わらない（新井）。

3 時間目 歴史で経済を教える（13：10～14：20）

梶谷真弘先生（茨木市立南中学校教諭）の報告、および、篠原総一代表（同志社大学名誉教授）のコメントで進行した。

3-1 模擬授業「淀屋常安」

(1) この授業の流れ

- ・歴史を歴史として学ぶのではなく、経済の視点で歴史を解釈していくことが大切。
- ・生徒への問い：淀屋常安はどんな人物だったのだろうか？
- ・エピソードクイズ 5代目の淀屋辰五郎はお金がありすぎて、どんなことをした？
→家を全面ガラス張りにして、屋上に金魚を泳がせた。
- ・生徒が食いつく「ネタ」からスタートし、学習をスタートする。
- ・問い：淀屋はどうやってこんなにもうけたのだろうか？

淀屋常安はどうやって大阪を「天下の台所」にしたのだろうか？

→「中州」を埋め立てて、米の取引所をつくった。（後の中之島）

当時の運搬の中心は船。淀川は、全国をつなぐ物流の拠点。

全国の大名家は、こぞって蔵屋敷を建てた。すると、取り引きに便利なのが広まり、全国から年貢米や商品作物など、様々なものが集まり、取り引きされた。

→大阪が「天下の台所」になった。

- ・その後、淀屋はどうなった？

→江戸幕府につぶされた どうして？

(2) 模擬授業の全体像

【单元全体】

江戸幕府はどうして260年以上も続いたのだろうか？

【本時の問い】

江戸時代に、どうして豪商が現れたのだろうか？

- ・平和な社会→生活に余裕が生まれ、より価値のあるものや嗜好品を求めるようになる。
- ・江戸の人口増加→大量の物資が必要になる。→売ればもうかる。
- ・商品作物の増加→農業技術の進歩により、商品作物をつくる余裕が生まれる。
- ・流通網の発達→戦国時代に整備された。
- ・貨幣経済の浸透→室町時代から徐々に浸透。

【室町時代と江戸時代の比較】

	室町時代	江戸時代
平和（幕府の支配体制）		
人口規模、都市の発達		
商品作物		
流通網の発達		
貨幣経済の浸透		

3-2 なぜ歴史学習に経済の視点が必要か

(1) 学習指導要領から

【中学校学習指導要領社会編歴史的分野の目標より】

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
→単に歴史を知るだけでは不十分である。

【中学校学習指導要領社会編歴史的分野の目標より】

(2) 思考力・判断力・表現力等

歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

・歴史的な見方・考え方＝ 時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり

・求められる力＝ 多面的・多角的に考察する力
複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力、説明・議論する力

・多面的・多角的な考察を通して、歴史（時間的に離れた事象）を理解し、当時と現代の視点を往還して民主的な市民（公民）に必要な見方・考え方を身につける→経済の視点

(3) 教師の視点、生徒の視点

【GOALの視点（教師側）】

①判断や行動は、経済の視点が大きく影響する。

②経済の視点でみることで、庶民の立場や社会全体のしくみなど、歴史をより深く理解できる。

③経済の視点でみることで、現代に応用できる。

【START の視点 (子ども側)】

経済の視点を取り入れることで、身近になる ②具体的になる ③考えたくなる

(4) マンキューの「経済の10大原理」を参考にして授業を組み立てる

- ・経済の大前提を「希少性」と捉える。意思決定をどの単元でも取り上げる。
- ・模擬授業の例では、江戸時代に、どうして豪商が現れたのだろうか？
- ・商品作物の増加、流通網の発達、市場の発達によって、交易が増え、大儲けをする商人が現れた。(市場)
- ・流通が発達し、流通に便利な場所で交易が行われたことで、商業全体が発達し、大儲けをする商人が現れた。(交易)
- ・商人たちがつくった市場・流通経路・商業システムによって、商人が潤うだけでなく、社会全体も潤い、発展していった。(経済システム)

(5) 吉宗と宗春の授業

・その応用として、吉宗と宗春(尾張藩主)の改革を比較させる→武士・商人・庶民にとって二人の政策はどうだったかを考えさせる。

徳川吉宗	徳川宗春
儉約	浪費→経済活性化
農業重視	商業重視
幕府の権力強化	地方都市の活性化
社会保障の充実	市民の経済力の向上

→ポイントは多面的・多角的に考察させること。

【単元計画】

- 第1時 徳川吉宗の政策に通知表をつけよう
- 第2時 徳川宗春と徳川吉宗の政策を比較しよう
- 第3時 田沼意次の政策に通知表をつけよう
- 第4時 松平定信の政策に通知表をつけよう
- 第5時 化政文化から、社会の特徴を表す瓦版を作成しよう

【江戸時代の課題】

財政再建、不況対策、社会保障

【公民的分野との接続】

- ・この授業を通して、
 - 1 基本的な経済の考え方の理解
 - 2 景気の変動と政府の役割
 - 3 財政(大きな政府と小さな政府)が公民と接続できるのではないか。

3-3 質疑

Q：徳川宗春は中学生段階で扱うことで逆に紹介・説明に時間がかかると考えた。田沼意次も商業中心に政治を行いました。田沼意次ではダメであった理由は何かあるのか？

A：複数の事例があることによって考えやすくなる。4人の人物の財政への考え方は、緊縮財政⇔積極財政（田沼がここまで言えるかは疑問ですが）という対比でもよいかもしれない。

Q：単元の問いの評価基準については？

A：1枚ポートフォリオを用意。学んだことを記録していく。それを基に単元の最後の問いを設定している。それを評価している。

Q：司会からのコメントと質問。エビデンスはどのような配慮をしているのか。

A：歴史的に事実かどうか不正確のこともあるが、複数資料を用意する必要がある。意見が分かれているものについては複数の解釈を扱う。

3-4 篠原総一先生よりのコメント

(1)「授業づくりにはお作法がある」

→(教科書のこの箇所)を、(このような例を使って)教えれば、
(簡単に理解できる)ようになる

→(機会費用という概念)を、(このように)教えれば、
(その概念を使って経済のコトを見る力)が身につく

何を、どのように、身につく力 は

- ・一体であること
- ・腑に落ちる程度に具体的であること
- ・本質的であること

(2)「市場」の本質とは？「市場価格」の役割りとは？

→価格に導かれて、希少な資源が効率的に配分されていく

- ・二つの中学公民教科書記述(市場の箇所)の比較 どちらが具体的か
- ・抽象的な表現：価格が上がれば、ある財の生産に使われていた生産資源が、より付加価値の高い財の生産に振り分けられていく。
- ・経済学の大命題 市場の本質＝アダムスミスの見えざる手、価格のシグナル効果

(3) 歴史ネタの出番

経済の仕組みが単純であった時代のネタの方が、経済の本質を浮き彫りにしやすい(たとえば、貨幣の交換機能)

(4)「エンクロージャー」ネタならこのように考えられる

東アジア貿易→毛織物の輸出→羊毛価格が上がる→地主が農地を牧草地に変え、農民を外へ出す

- (5) 「エンクロージャー」ネタからさらに学べる経済のこと
- ・労働力と土地の商品化、(産業革命をまって) 労働市場が確立
 - ・所得格差、社会保障の導入 所有と経営の分離
 - ・繊維産業の発展(産業構造の変化) 技術開発の道筋(紡績機の発明)
 - ・貿易の本質 リカード比較優位原理の本当の意味
 - ・貿易インフラ(運輸、金融、流通、市場情報…)

4 時間目 地理で経済を教える(14:30~15:40)

河原和之先生(立命館大学経済学部非常勤講師)による報告と加藤一誠先生(慶應義塾大学商学部教授)によるコメントで進行した。

4-1 河原和之先生の報告

(0) 本日のテーマ

- I “くまモン”から地理的見方・考え方へ
- II 地理学5大テーマとは
- III 新潟県の米づくり～「位置」「分布」「場所」～
- IV 静岡県のお茶栽培～「歴史」的背景を軸に～
- V 川上村のレタスづくり～「空間的相互依存体系」～
- VI 沖縄の第二次産業の割合が小さいワケ
- VII バラ生産の変化～「空間的相互依存体系」～

(1) “くまモン”から地理的見方・考え方へ

1 くまモンのほっぺの赤は何と何?

→トマトとスイカ これは暗記地理

<今帰仁スイカのキャッチコピー>

・ちょっと「深めて」みよう!～見方・考え方～ 市場・需要・供給・付加価値
一度でいいから()でスイカを食べてみたかった!(沖縄県は全国12位)

*スイカ生産ベスト5

熊本、千葉、山形、新潟、長野

答えは「コタツ」 沖縄の冬のすいかは希少性があり、価格が高い→付加価値を与えて利益を得ている

2 さらに深めてみよう!見方・考え方 ～熊本平野と阿蘇山から流れる白川、緑川～

*熊本県の農業生産額は全国6位である。その要因は、三方を山に囲まれ、夏と冬の気温差や一日の寒暖差が大きいことである。(熊本市では日較差が()度という記録もある)

寒暖差が大きいと甘い果実や美味しい米ができる。 答えは「24」度

*熊本産の「ヒノヒカリ」が美味しい米、1位に選ばれたこともあり、熊本平野は、阿蘇山

の噴火活動で大量の噴出物が川に流れ込み、それが平野を作った。火山性堆積物で、上層は黒色ローム、赤土、下部は軽石、火山礫などから豊富な栄養から成る。これが養分となり農作物に好影響を与える。

3 八代平野と日本三大急流の球磨川

*八代平野は、日本三大急流の一つである球磨川などの河川が運んでくる堆積物の影響で比較的水深が浅く、そのため埋め立てが比較的容易で、現在の平野の半分以上は干拓により造成された土地である。

*干拓地で栽培されているのが「塩トマト」である。普通のトマトの糖度は5度程度だが、塩トマトは8~10度程度となっており、小ぶりだが、糖度が高くフルーツのような甘さが特徴である。

<塩トマトの甘さの秘密と希少性>

- ・寒暖差のある気温
- ・干拓地なので土壌の中に塩分が多く含まれている
- ・トマトが塩水を吸収しないので、果実まで水分が行き渡らなく、大きくはならないが、味の濃い甘いトマトに育つ。
- ・普通のトマトは通年流通しており、露地物の旬は6~8月頃となっている。
- ・塩トマトは一般的には12~5月頃の比較的寒い時期にだけ流通している。
そのため、高価格で販売される。

○マイナスからプラスへ ~人間と自然との相互依存関係~

火山である阿蘇山、急流の球磨川から災害などのマイナスの影響をうけつつ、人間は、それに対応し働きかけ改変することにより相互依存を築いている。

4 地理的見方・考え方とは？

「なぜそこでそのようなことが見られるのか？」

「なぜそのように分布したり移り変わったりするか？」

「地理的事象を成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みに着目して追究する」

→地理的経済的見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする

→広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を育成する

(2) 地理学の5大テーマ (学習指導要領の趣旨から発表者が一部改変)

① 位置や分布

・それはどこに位置するのか (規則性)それはどのように分布するのか? (絶対的位置と相対的位置)

② 場所

・自然的、人文的に多様な特徴を示す、地形、土壌、気候、水、植生、動物、人間生活など

③ 人間と自然との相互依存関係

・そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか？人々は自然環境に働きかけ、自然を改変するなど影響を与えてきた

④ 空間的相互依存作用

・資源は、不均等に分布する。資源の自給自足できる国などは存在しない。場所は、資源や情報を交換するために、運輸・通信システムにより結ばれている。地域的、国家的あるいは国際的な相互依存作用。

⑤ 地域

・その地域はどのような特徴があるのか他の地域ではどこが異なっているか

・変容してきた、変容していく地域も視野に入れ、過去、現在、将来を見返す視点

・地域調査に当たっては、対象地域は学校周辺とし、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定。

○学習指導要領で新たに「交通・通信」が分析の視点として入る

「地域の道路や鉄道、航路や航空路、通信網などの交通・通信に関する特色ある事象を中核として、産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付け、交通・通信が地域の産業や人口や都市・村落などと深い関係をもっていることや、地域間の結び付きの整備が地域の課題になることについて考察する」

<事例>「東北地方では、高速道路や新幹線、空港や港湾の整備により、どのような変化がみられるか」

(3) なぜ新潟県ではコメ作りがさかんなのか？

新潟県は、なぜ米作りがさかんなのか？まずは「水」である。日本海側は降雪量が多く、雪解け水を田植えの時期に利用できる。また、「やませ」による夏の冷害や、稲穂が育つ秋は、「台風」来襲もほとんどなく被害も少ない。そして「気候」である。稲の育つ夏には降水量が比較的少なく、寒暖差もあり、おいしい米が育つ。新潟県は気候、土壌や水など、米作に必須の条件が十分である。つまり、米作はどの都道府県でも行われているが新潟県は、以上述べたような他県にはない「地方的特殊性」がある。

コシヒカリで有名な南魚沼では、米をいっそう美味しくする努力も行われている。稲刈りの後に、稲穂を下向きに乾すのは養分を稲穂に集め、さらに、美味しい米にするためである。固定するだけだと満遍なく太陽光が当たらないので、秋には使用していないリフトを有効活用し、高価だが、付加価値のある米作りを行う。

(4) 静岡県でお茶生産が盛んなワケ

お茶生産量ランキング(2018年) 農林水産統計より報告者作成

順位府県名年間生産量(百トン)

- 1 静岡県 334
- 2 鹿児島県 281
- 3 三重県 62
- 4 宮崎県 38
- 5 京都府 31

静岡県は、日本有数のお茶の産地である。新茶は5月頃収穫され11月くらいまで販売される。茶樹は年平均気温13度から22、5度で育ち、静岡県の親潮が流れ比較的温暖な日当たりのいい斜面が適している。お茶の生産ベスト4は「静岡」「鹿児島」「三重」「宮崎」であるが「なぜそのような分布の規則性、傾向性を示すのか」を考えることが大切だ。

静岡は、江戸幕府15代将軍慶喜の幽閉先である。慶喜は、茶の栽培を奨励するとともに、失業した士族の仕事保障を行い、茶栽培は、安倍川中流域から牧の原へと拡大した。また、明治時代になり橋が作られ、大井川の“渡し”に従事していた人々が失業し、その救済によって携わったのも茶栽培である。だが、茶栽培は、気候の変化により、収穫量が不安定である。価格の変動に伴うリスクを回避するために明治中期に和歌山県から苗木を導入したのが、みかんである。歴史的背景を踏まえた「地方的特殊性」から深い学びへと発展する学習が重要である。

◇静岡県のみかん栽培が行われているのは、お茶栽培へのリスク回避として、和歌山からみかんの苗木を移入したことによる

◇どうしてお茶屋さんでは海苔も販売されているのか？

新茶は、4月から5月（10月までお茶は生産）、海苔は11月から3月が旬であり、どちらか一方の販売では商売として成立しない。一年中商売をするためと、太陽が当たらず湿気の少ない場所での販売という共通点がある。

（5）長野県川上村レタス栽培

レタス栽培が行われるようになったのは、1950年であり、アメリカ占領軍への食糧供給に由来する。夏にレタスの抑制栽培を行う長野県が約34%の生産で、中でも川上村(63800t)は2位の南あわじ町(28100t)を圧倒する。なぜ川上村でレタス栽培がさかんなのだろう？

内陸性気候で降水量は少ないが、スプリンクラーが設置され、標高が高く、夏の朝は“霧”が発生し、水分補給の役割を果たす。物流については、中央自動車道により、関東や名古屋方面、そして関西方面へも“朝採れ”レタスを販売することが可能である。また、1970年以降、農地を開拓し、大規模野菜産地に転換され効率的な農業が行われている。つまり、川上村の「位置」「場所」、高速道路による物流（「空間的相互依存体制」）が、川上村の農業を育てた。

川上村は、65歳以上の高齢者が長野県や全国と比較して少なく、30代～40代の農業

従事者も多い。その要因として、半年で約2000万円の売り上げがあること、農作業に時間的余裕ができ冬場は、近くのスキー場で、インストラクター、東京のスケート場などでアルバイトをする人もいる。そこで知り合った人と結婚し農業を引き継ぐカップルも誕生している。

◇技能実習生問題

- ・レタスの収穫シーズンになると、人口約4千人の村で働く外国人技能実習生は約1千人にもなる。
- ・日本人を雇おうと時給1000～1500円を掲げるが、応募は少ない。これまで10年以上、実習生を受け入れてきた。だが、失踪は多い。やってきたのが、別の場所から失踪した不法滞在であることもある。「失踪覚悟で外国人を雇っている。もうそれしかすべがない」
- ・村では数年前、中国人実習生を劣悪な環境で働かせたとして、日本弁護士連合会から改善を勧告された。それ以来、環境整備に取り組んできたという。

(6) 沖縄の特色を1位と47位から考える

1 沖縄県の1位 ～なぜ?～

- ・一人あたりのボーリング場、ゲームセンターの数
- ・一人あたりのバイク保有台数
- ・非正規雇用率 ・合計特殊出生率 ・子育て世帯、高齢世帯の相対的貧困率

2 沖縄県の47位～なぜ～

- ・最高気温 ・登山、ハイキング人口 ・神社、寺院の数 ・朝日、読売新聞の購読者数
- ・うどん店 ・キャベツ消費数 ・イカ、ブリ、わかめなど消費量 ・ピアノ普及率

*沖縄県の「1位」と「47位」を考えることで沖縄の現状と課題が見えてくる

3 沖縄で第二次産業が発達しなかったワケ

- ① 沖縄は本土からの距離が遠いという「位置」「場所」のマイナスの要因
- ② 交通・通信（空間的相互依存体系）
「鉄道がなぜ作られなかったのか？」→台湾を優先したのでいまだに流通に不可欠な鉄道が走っていない。また高速道路も少ない。
- ③ 米軍基地があり会社や工場を建設する場所が少ない
- ④ アメリカの占領（1945年から1972年）「歴史」的視点
*1950年から1960年代、本土が、高度経済成長期でインフラの整備などが行われた時期はアメリカの占領期で、その享受を受けることがなかった
*1972年に日本に返還されるが、1973年以降は石油危機による低成長の時代に突入してしまう

(7) バラの生産と空間的相互依存体系

1 世界の諸地域の扱い方 (学習指導要領)

「空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする」

「世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する」

「地球的課題については、グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない課題、例えば、持続可能な開発目標 (SDGs) などに示された課題のうちから課題を取り上げる。【目標 1】 貧困」

2 バラ栽培の盛んな国 ～位置、分布、場所～

○バラ栽培に適している自然条件

最低気温 10°C 最高気温 25°C 日射量が高い

○2004 年の日本のバラの輸入先

オランダ (31%) インド (25%) エクアドル (10%)

ベトナム (9%) 大韓民国 (9%) コロンビア (7%) ケニア (6%)

財務省貿易統計 (2014)

<考えよう> オランダから 1 位の座が変わりました。どこの国? ()

ちなみに、日本のバラの輸入先 2 位以下は、財務省貿易統計 (2015 年)

2 コロンビア (14.9%)

3 エクアドル (9.8%)

4 インド (8.1%)

5 韓国 (7.5%)

6 ベトナム (6.3%)

答え、1 位はケニア (44.2%) ←「なぜ?!」と考えてみたくなるネタ

なぜ、オランダから東アフリカへ

- ・1970 年代オイルショック→温室で使用する燃料費の高騰
- ・ケニア、コロンビアへの移行→赤道付近の高地にあり気温が一定で、日照時間が長い
- ・人件費オランダ：ケニア (10：1)
- ・栽培方法大規模な栽培が可能数千本の注文にも応じる
- ・輸送方法オランダ経由からドバイ経由へ
- ・ドバイフラワーセンター

草花栽培業の物流ハブとして 2006 年に開設された冷蔵保税倉庫施設。ローカルビジネスに対応したオフィス棟も併設されている。生花、生鮮食品のグローバルな貿易が急成長していることから、これらの物流をよりスムーズに行えるよう施設が整えられている。アフリカ (特にケニア) 産の花が一度ここを経由しアジアへ運ばれるなど、再輸出のハブとして機能

している。→交通と通信が「しくみ」変える。

(8) 学生(大阪成蹊大)の模擬授業～ゴーヤから考える沖縄の歴史と気候・文化～

1 ゴーヤ、好きですか？

『ゴーヤは好き？』と問う。挙手させると半分くらいが「あまり好きではない」と回答。理由は「苦い」「薬みたい」「美味しいと思わない」他に「ゴーヤチャンプルーは大好物」「他の食材といっしょに食べると美味しい」などの意見もある。

『ゴーヤの別名は「ニガウリ」と言います』『なるほど、この名前のほうがピッタリだ』

2 ゴーヤ生産量

<クイズ>沖縄では、年間7346t(2018年)を生産しています。日本全体の何%でしょう

40% 50% 60%

答えは「40,6%」であり、第二位宮崎県と第三位鹿児島県をあわせると約60%の生産量である。

3 ゴーヤの歴史

<考えよう>「ゴーヤは沖縄が原産地で江戸時代に全国に広まった」というのは“ウソッ”“ホント”？

回答は半々に分かれる。答えは「ウソッ」である。

『ゴーヤの原産地は沖縄ではありません』『アフリカ？』『ちょっと遠い』『インド』『そう！インドです。インドからどういう経路を辿って沖縄に入ってきたかな？』『そりゃ中国だ』『どうして？』『江戸時代、沖縄は中国と関係があったから』

『インドから東南アジアをへて14世紀末に中国に、そして、江戸時代初期に沖縄(当時は琉球王国)に伝わりました』

4 沖縄でゴーヤが食べられるワケ

* 沖縄の雨温図を示す。

『沖縄の気候は？』『1年中暑い』

『年中高温だよ。ちょっとした豆知識だけど、沖縄の年間の最高気温は全国47位なんだよ』

「へっ！夏場は他府県と比較して涼しいんだ」

『まわりを海に囲まれているからね』

<グループ討議>気候から考えて、沖縄でゴーヤ消費量が多い理由を考えよう

「苦さで暑さを忘れる」(笑)「あの苦みは暑さを吹っ飛ばす」

「ゴーヤチャンプルーって、いろんな野菜を混ぜるから夏バテ対策になる」

「熱中症を防ぐ成分があるとか？」

* 沖縄には「医食同源」という中国風の考え方があり、食事は健康維持するための薬と考えられていた。沖縄では、ただの野菜として食べるのではなく、夏バテ予防の薬としても使用

された。蛇足だが、沖縄では「シーチキン」が一缶ずつではなく、ケースで販売されている。これは、ゴーヤチャンプルー同様“混ぜる文化”に由来している。沖縄は、琉球王国時代から、中国や東南アジアをふくめ、海を通しての交流・交易があり、複合文化が育っている地域とも言える。

結語 地理学の5大テーマを意識した事例を学生に紹介することで、学生の模擬授業もそのことを意識した実践が行われる。

4-2 加藤一誠先生によるコメント

「地理的事象を経済教材として使ってみましょう」

(1) 貿易の事例

目的：貿易（経済行為）を地理的事象として眺める

日本全体の貿易を眺めましょう

まずはデータが必要→自分で集計しないと。。時間がない。→財務省貿易統計→集計をグラフ化している

最近の輸出入動向 <https://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/data/y2.pdf>

→話は美しいが、食料（糧）の輸出額は小さい例もある

例. 精米の2021年度輸出額は55億円

→中国がコロナ後すぐに再開、しかし、アメリカがコロナで港湾ストップ

⇒コンテナがアメリカの港湾に滞留＝荷物を運ぶ供給スペースの縮小⇒値上がり

<https://www.jpmac.or.jp/file/1658896339767.pdf>

(2) 物流の問題

船と飛行機の共通点と相違点は？

① 貨物と旅客の違い

○貨物は文句を言わない（暑さ、狭さ、遠さ）

○行くだけで、帰りはない

○行き先を決めるのは本人以外

② 船と飛行機

○大量船> 飛行機

○速達性船< 飛行機

○ダメージの可能性船> 飛行機

運送価値が高いから航空を使うため、運賃負担力と言う。

また、航空運賃はコスト＝大きな費用ですから、費用が運賃を決めるという運送費用説という考え方もできる。

需要と価格の関係（航空輸送） カーネーションの季節変動が大きいことがわかる。航空での輸入量も増えるが、価格も上がっていることに注意。

海上運賃はどうなっているのか？ カーネーションの季節変動が大きいことがわかるが、価格は安定していることがわかる。使途を考えるとわかりますね。

③ 国による違い

1) なぜ、「韓国」？

成田ー仁川ーケニア：三国間輸送ではないか？

→日本でも急激に増えています（アジアー日本ー北米）。

2) 新しい情報

沖縄で使っていたのは貨物専用機材でしたが、コロナ禍前に今は成田に集約され、「沖縄ハブ」は機能していない。

旅客便のベリー（お腹）で運ばれているため、旅客便が止まれば、他の方法で運ぶしかない。

④ 教科書（ここでは手もとにある東書）でどのようにこの問題が深められるか？

138 ページ 産地から生花市場や魚市場に運ばれて…小売業者の店に並ぶ

➤運ばれる手段は？

➤商社の役割（251 ページに解説）

160 ページ「グローバル化」＝分業（140 ページ）の形態が多様化

➤垂直（原材料輸入）から水平分業へ（部品＝高いもの）を輸入⇒貿易赤字

➤日本から農産品の輸出も

ここから 花卉（切花）輸出をなぜ、飛行機で？という問いが生まれるのでは。

4-3 質疑

Q：河原先生がご自身の教材研究の秘密を、若い人に継承するとすれば、どんな点や姿勢か。

Q：地理的分野の教材作りは、交通・通信から考えると「暗記」から脱することができるという事か。

A：二つを一緒に回答する。地理学の5大テーマを意識して作るとよい。学生もそのように授業を作ってきている。

Q：先生の教材化の視点についてお伺いしたい。はじめに「授業目標」を意識してからネタを収集するのか、それとも先に「ネタ」を収集してから授業の目標に近づけて行くのかでは、先生はどちらを選ぶことが多いか。

A：両方ある。ネタを見つけたら温めておいて、どこで使えるかを考えることもある。例えば、東京煮来たときに見た電車の広告のテロップ「ゴッホはなぜ浮世絵を知ったのか？」→陶磁器の包み紙から。これなどどこかで使えるネタ。

以上、記録と文責：行壽 浩司